

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	隅田由加里	職名	講師	学位	修士(看護学)(産業医科大学 2017 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護管理 基礎看護学	看護実践能力、看護経験 1~3 年看護師 看護学生、職業的アイデンティティ

研 究 課 題
*2017 年の研究で抽出された、看護実践能力習得の影響因子である「学習支援」「看護師経験年数」「相互支援の雰囲気」「成功体験からの成長実感」「状況変化対応能力」「コミュニケーション能力」を中間変数、それ以外の先行研究で抽出された因子を潜在変数、看護実践能力を目的変数とし、これらの変数がどのように関連しながら、経験 1~3 年の看護師の看護実践能力を向上させているのかを共分散構造分析を用いて考察する。 *看護学生が職業的アイデンティティを形成していくにあたっての効果的な教授方法を考察するため、まずは、文献検討を開始し、アイデンティティ形成の仮説を立案する。

担 当 授 業 科 目
<前期> ・診療関連技術論(必修) ・看護技術論(必修) ・看護過程論(必修) ・看護マネジメント論(選択科目) ・基礎看護学実習Ⅱ <後期> ・看護マネジメント総論(必修) ・生活援助技術論演習(必修) ・フィジカルアセスメント技術演習(必修) ・基礎看護学実習Ⅰ <通年> ・看護総合演習 ・看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 診療関連技術論演習 】 2 年前期科目。対面式授業で予定されていたが、感染拡大に伴い遠隔授業へと変更となった。このため遠隔期間中は先に講義を行うことで対応した。また例年行っていた実技試験は感染問題から実施困難と判断し、講義終了時のミニテストへ変更し知識定着に重点をおくこととした。このミニテスト終了後に対面授業も再開となったため、クラス別に人数を制限し演習を実施した。学生は 1 年次から殆ど演習を行うことが出来ておらず技術演習のニードを強く持っていたので、希望者には感染防止対策を講じ自主練習が行える環境も提供し学習の場の構築に努めた。また動画等を活用しイメージ化を図る工夫も行った。
授業科目名【 看護技術論 】 1 年前期科目。「環境を整える技術」を中心に授業を展開した。5 月に入り感染拡大によって対面授業は一旦中止となったため、「ベッドメイキング」「シーツ交換」の演習は対面授業再開後に行うこととし授業スケジュールを状況に応じて変更した。この間主担当教員と調整を図り、遠隔で可能な授業、そして遠隔で早期看護実習を企画し行った。早期看護実習の目的の 1 つである「病院を知る」「看護師の役割・業務を知る」という課題に関しては、日本看護協会等の動画を活用して目的達成に向けて取り組んだ。

7 月に入り遠隔授業が再開された後、当初の予定通り感染防止対策に留意し、少人数ずつ「ベッドメイキング」「シーツ交換」の演習を実施した。
授業科目名【看護過程論】 終始対面授業で行われたため、感染防止対策に留意を払った。グループ学習では主担当教員の授業を聴講し、その教授内容を補填するような形でグループワークの支援を行った。学生の記録物は適宜確認を行い、学習内容を把握し適宜コメントを行った。
授業科目名【看護マネジメント論（4年生）】 看護総合演習・実習の中の「看護管理」を選択したゼミ生が中心に選択しているため、看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、学生の実習部門を考慮し授業を構成した。最も看護管理を学ぶにあたってわかりやすい組織である「医療安全管理部門」を軸に看護管理とは何かから実践例を盛り込み遠隔授業で対応した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 本来は2年前期の9月に全員一斉に実習を3施設に分かれて行われていたが、感染拡大に伴い各病院の方針もあり、当初の予定の実習病院では実習を行うことは困難な状況となった。このため主担当教員が中心となり、大学周辺の病院施設に実習依頼を行い新規開拓を行った。病院の規模から一斉の実習は困難であったため、第1陣、第2陣、第3陣と分散した上で、各施設の状況に則って実習詳細スケジュールを企画調整し、可能な限り臨床実習が行えるように配慮した。複数の病院から院内での飲食禁止が求められたため、AM・PMに分け約3時間の臨地実習と、それ以外は学内に戻っての振り返り実習という形式をとった。臨地では学生が有意義な実習ができるよう、管理者、指導者と調整を図り、学内では学生が看護を思考できるよう情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案を支援し、適宜記録物はGoogle クラウドの電子媒体を活用しながら確認しコメントを行っていった。最後の看護技術の提供は臨地では困難と判断し学内で実施した。しかし約32名の学生はオミクロン株の蔓延の影響で臨地実習に行くことができず学内実習となった。学内においても臨地と同様の実習が行えるよう、電子模擬カルテを作成するとともに、学生の関わりがほとんどなかった教員等に患者役を依頼するとともに、看護師役・教員役と役割分担を明確にし、学生の実習支援・指導を行った。
授業科目名【看護マネジメント論総論（2年生）】 2年後期科目。遠隔授業であったため、学生の体調や心理面に問題はないかなどの配慮を行うとともに、授業終了後は、質問 foam アンケートを毎回実施し、学生の質問には翌週回答するようにした。また看護管理は経営学などの要素も入っているため、まずは用語理解に努めること、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえて授業を展開した。現在の医療において重要性が高い医療安全は国家試験に出題されるため、講義内にも盛り込み授業を展開した。
授業科目名【生活援助技術論演習】 1年後期科目。対面授業で実施した。3単位の科目であるため、診療関連技術論演習のように講義と演習を区分することは困難であった。このため、まずは講義を実施、その後昼食を挟んで、診療関連技術論演習同様に人数を分散制限し、2回に分けて同様の演習を感染防止対策に注意を払いながら実施した。演習がない時間は、各学生が予習や振り返りができるよう、学習用の教室に1名教員を配置し、また動画配信やワークシートを作成し学びを深めることができるよう工夫した。
授業科目名【フィジカルアセスメント技術演習】 1 年次後期科目。主担当教員の指示のもと、バイタルサイン測定技術を中心に演習指導を行った。バイタルサイン測定に関しては、円滑に実施できるよう手順の詳細な方法をはじめ、根拠や患者の安全、安楽、自立への配慮や、思いやりのある声掛けや説明の方法、プライバシーへの配慮などにも留意して支援・指導を行った。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 1年後期の2月に行う実習であるが、オミクロン株の蔓延の影響で臨地での実習は行えず、実習は遠隔で行うこととなった。基礎看護学実習Ⅰの主たる目的は、病気が対象者の「からだ」「こころ」「生活様式」にどのような影響を与えるのか、そして看護者のコミュニケーション力が患者に与える影響を思考することである。このため、約6人のグループを編成しグループダイナミクスが発揮できるよう調整を図った。あえて限られた患者情報のみしか提示せず、まだ学生が関わっていない教員等に患者役を依頼し、画面を通して約10分とい

う制限時間の中で代表者がコミュニケーションを図る形式として企画した。この限られた関わりから学生が上記の目的を達成できるよう、各担当教員を配置するとともに、Google クラスルーム内にブレイクアウトルームを設け、思考過程に準じや記録用紙を改訂し学生の支援・指導を図った。結果として臨地実習と同等レベルで学生は深く上記の目的に関して思考し記録にまとめることができた。
授業科目名【看護総合演習】 実習施設からは実習時間等の制限はあるものの実習は可能との返事を頂くことができていた。このため実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「外科病棟」「内科病棟」の学びを、週に1回水曜に3・4限目を活用して行った。演習においては、各学生が上記の部門に関する文献から自主学習を行い、その学習を発表しながら教員が補填をしていく形式として、8月下旬までの実習に実習目的・目標・実習スケジュール・評価指標を構築することができた。また実習終了後は遠隔で演習を継続し、各自が実習報告書を兼ねた卒業レポートの記載に取り組み、 2022年1月には報告書の冊子作成が完了した。
授業科目名【看護総合実習】 4年前期の8月30日～9月9日までの期間の計6日間3時間という時間制限はあったものの、上記演習に記載した全ての部門の臨地実習を行うことができた。実習遂行にあたっては年度初めの4月から複数に渡って、教員担当看護副部長と調整を重ね、最終の実習指導者への説明会に関しては教員が代行説明を行うことで補った。病院の指示に従い、実習開始2週間前から学生は自主隔離を行い、感染防止対策をして実習を終えることができた。 コロナ禍において3年次の各論実習の多くが学内実習となっていたため、施設側の配慮から、病棟実習では看護師のシャドウイングを通して患者のベッドサイドケアの見学や多重業務の状況を、感染制御部では脳神経外科のセンターやICU内の感染防止対策巡視に同行させていただき、貴重な 実りある実習を行うことができ、就職後のレディネスに役立つ実習となった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護技術学会	なし	2017年4月
日本看護学教育学会	なし	2017年4月
日本看護管理学会	なし	2017年4月
日本看護科学学会	なし	2017年4月

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 経験年数1～3年における看護師の看護実践能力習得過程に関わる影響要因の因子構造	単	2,021 年 12 月	第41回日本看護科学学会学術集会（オンライン形式）	＊看護実践能力習得過程構造を看護実践能力習得の影響因子である「学習支援」「看護師経験年数」「相互支援の雰囲気」「成功体験からの成長実感」「状況変化対応能力」「コミュニケーション能力」を中間変数、上記以外の因子を潜在変数、看護実践能力を目的変数とし、共分散構造分析を用いて解明した。 ＊セッション名：示説 第2群 看護教育Ⅰ 演題番号：P2-82

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程（ （教育運営委員役割） （フォーストレベル 質管理Ⅰ：看護サービス管理の安全管理授業担当）	教育運営委員	2017年より継続

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

- ・学生募集委員
- ・看護師国家試験対策担当
- ・1年生アドバイザー